



室生犀星ゆかりのあんずを未来につなげよう！

## かなざわ「あんずのまち」構想に向けた地域住民の研究

かなざわご近所コラボプロジェクト（石川県金沢市）

### 1. 金沢の魅力が交差するまち～金沢市千日町・白菊町・中村町界隈の紹介～

- ◇江戸の昔には、藩主・前田家ゆかりの武家屋敷や下級武士の住まいがあり、またその一方で、生活用品や作業機具を製造する職人や染物などの伝統工芸を担う職人、そして農家など、さまざまな人々が暮らしていた地域です。
- ◇豊かな水を湛える犀川のほとりに位置し、域内には藩政時代に整備された用水や曲がりくねった細い路地、独特の広見という空間などが何箇所も残っています。山手にあたる寺町寺院群の流れも組み、寺社が多数点在していることも特徴です。
- ◇城下町金沢の中にあって、有名な観光スポットほどの華やかさはありませんが、藩政時代の面影を残すレトロでのんびりした地域です。

### 2. 地域住民たちが「研究」に挑戦～行動のきっかけ～

- ◇金沢市内には、まちづくり活動が盛んな地域がありますが、当地域においてはこれまで積極的に行われてきませんでした。当団体は5年前に有志が集まり、地域の活性化をめざして活動を開始。以来、小学生と大人の協働で行ったウォークラリーやお散歩マップづくり、多世代の地域住民を巻き込んだ地域限定スイーツづくりなどをつうじて、再発見した地域資源（もの・ひと・こと）を体系的に記録してきました。同時に地縁の再構築をはかりながら、地域愛の育成に取り組んできました。
- ◇活動を続ける中、「これまで行動を起こせなかったけれども、自分の住むまちを盛り上げたい」という潜在意識をもった地域住民が多いことに気づきました。当地域でも少子高齢化が深刻化しているため、その気持ちをしっかり受け止めて、「自分の地域の今と未来」を早々に話し合い具現化していくのは今だと確信しました。
- ◇私たち地域住民は研究者ではありませんし、企業の研究員でもありません。しかし、当事業のイベントに参加した人だけでなく、参加しないが興味を持ってくれた人、陰ながら応援してくれた人など、多世代にわたる「普通の地域住民たち」が「研究」という学術的な活動に挑戦しました。その勇気と行動力に深く感謝しています。

### 3. 「あんず」はまちのシンボルツリー～地域住民の絆づくり～

- ◇地域住民の誇りの一つが文豪・室生犀星（明治22年～昭和37年）です。犀星は当地域で生まれ育った詩人・小説家・戯曲作家です。域内にあった生家跡には記念館が建てられており、幼少期を過ごした寺院・雨宝院には、彼の作品や人となりを紹介した資料が展示されています。
- ◇犀星の作品に幾度も登場するのが「あんず」です。かつては生家の裏庭にあったと地域の人が教えてくれました。しかし、強風で倒れてしまい、今では犀星ゆかりのあんずは雨宝院の境内にある樹齢120年の古木1本だけとなってしまいました。

◇「あんず」は、○まちのシンボル、地域の歴史を語る宝物

○花が咲き、実が生る頃を楽しみにしている、生活に息づいている

○地域住民の心をつなぐ大切なもの

〔当団体メンバーと地域住民から湧き上がった思い〕

→この素晴らしい文化と地域愛を未来へつなげたい。

→私たちがここに生きて、あんずゆかりのまちを愛した記憶を残したい。

→「あんずのまち」構想に向けた研究へ。

#### 4. 住民手づくりの研究とトライアル～実施内容～

##### (1) 実施項目

- ①「1家庭1あんず」プロジェクト1（平成27年5月～）
- ②「あんずのまち」先進地視察（平成27年6月22日）
- ③松本市からの視察受け入れ（平成27年10月30日）
- ④「金沢マラソン」応援者おもてなしスポットでPR（平成27年11月15日）
- ⑤「1家庭1あんず」プロジェクト2（平成28年3月13日）

##### (2) 実施内容

###### ①「1家庭1あんず」プロジェクト1（平成27年5月～）

「あんずを知り育てることで地域愛を育む」「あんずのまちらしく、あんずを地域内に増やしていく」「あんずで結びついた地域住民が地域の未来を語る」が目的です。

A：あんずの若木50鉢を用意（5月）

石川県認定「百万石の名匠」の称号をもつ庭師（造園業・田中さん）に品種の選定と鉢植えについて指導いただきました。品種は茨城産「幸福」。金沢町家の玄関に合うようシックな茶系の鉢を用意しました。

B：「あんずの若木を一緒に育てましょう♪」参加者募集（7月～）

対象地域（千日町・白菊町・中村町）の住民に対して、回覧板であんずオーナー（50鉢限定）と事業説明ワークショップへの参加を呼びかけました。

C：事業説明ワークショップの開催（9月13日）

小学5年生から80歳までの20名が参加。まちへの思いを語り合いました。

- ・庭師の指導で鉢植え体験、あんずの育て方と質問コーナー
- ・ワークショップ「住民がイメージするあんずのまちとは？」
- ・交流カフェ（あんずスイーツとティー、ジャムの試食）
- ・オリジナルグッズ（あんずデザインの台所たわし）をプレゼント

.....  
〔ワークショップでの地域住民の声を抜粋〕

☆「あんずのまち」ってどんなまち？

あんずがいつも身近に感じられるまち。／花が咲いたらきれいとお眺め、葉がしおれてきたら水をやり、実がなったら取って食べ、そして保存し楽しむ、そんな



生活とともにあんずがあるのが「あんずのまち」ではないか。／あんずの木がたとえ1本でも、住民みんなが同じ思いを共有することで、あんずのまちといえるのではないか。

☆この事業で伝えたいことは？

「あんず」がまちのシンボルであることを共有することでコミュニティの核となる。／この研究が常に発信していける事業のきっかけ。

☆この事業を自分はどう感じたか？

これからもきっと蕾をもったと喜んだり、肥料はどうしようと悩んだりするのだろうと考えると、そのことが楽しく思える。／あんずの状態を隣人と比べたり、情報交換するのも、薄れていくご近所関係に新しいコミュニケーションツールを持たせてくれた。／通りにあんずの鉢植えが揃って置かれているのを想像すると、うれしい気持ちになる。自分自身もあんずがまちの誇りと思っているのに気づいた。／あんずの葉が落ちてしまった！（冬になれば当たり前）と一喜一憂する自分に気づいたことで、常にあんずを身近に感じる事ができた。

☆これからの活動やイベントは？

あんずの鉢の近況報告会や情報交換会を定期的で開催したい。／鉢で対応できないほど大きくなったら、土手や公園にあんずの路をつくりたい。／地域住民一体となって、お花見やあんず摘みなど行事をしたい。／たくさんの果実が採れれば、地域で名産品をドンドン開発、販売し、住民がやりがいを持ち、楽しくそして豊かなまちにしていきたい。／ますます「あんずのまち」を根付かせ、活性化していくために何をすべきか、他の視点からも研究してみたい。

②「あんずのまち」先進地視察（平成27年6月22日）

北陸地域づくり協会のネットワークで、先進地とコーディネーター（長野市・土屋さん、千曲市・西村さん）を紹介いただきました。庭師の田中さんを含む5名が参加。それが縁となり、「あんず1本のまち（当地域）と10万本のまち（千曲市）」の交流が始まりました。

A：千曲市を視察





あんず農家でお話を伺い、あんずや製品を試食。品種の多さに驚きました。ジャム作りなどができる体験施設も見学。利活用のヒントを学びました。

B：小布施町を視察

景観・観光施設・商業施設を案内していただき、トータルにプロデュースされたまちを学びました。

### ③松本市からの視察受け入れ（平成27年10月30日）

松本市釜田地区の町内会長20名とまちづくり施設の職員が来訪。あんずスイーツでもてなしPRしました。

### ④「金沢マラソン」応援者おもてなしスポットでPR

（平成27年11月15日）

応援者のためのおもてなしスポット企画を提案。金沢市の市民と行政による第1回パートナーシップ事業に採択されました。

A：国内や海外からの応援者に「あんずのまち」をPR

金沢市内7つの文化施設でおもてなしスポットを運営しました。活動紹介をつうじ「あんずのまち」をPRしました。

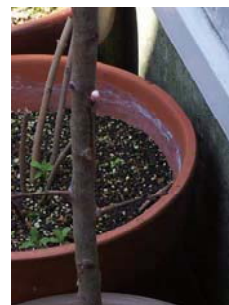
B：「あんずスイーツ」「あんずジャム」でおもてなし

尾張町老舗交流館と尾張町町民文化館では来場者にスイーツとジャムを提供。「あんず」をキーワードにさまざまな国の来場者と会話が弾み、楽しく交流。

### ⑤「1家庭1あんず」プロジェクト2（平成28年3月13日）

A：ワークショップ&交流カフェの開催

- ・庭師（田中さん）による巡回と育て方のアドバイス
- ・樹木研究家（石川県自然史資料館・高木さん）による樹木のお話
- ・ワークショップ「あんずのまち」づくりのためにできることやアイデア



あんずオーナーから「小さな花をつけた」という声が寄せられ、地域の元気と希望につながっています。

## 5. 「あんずのまち」をめざして～実施のふりかえり～

- ◇「あんず」というシンボルを誇りに思い、事業に賛同した住民が集まりました。「実は参加しなかった」という潜在的な賛同者もこれから取り込んでいきます。
- ◇地域住民がまちの未来像を描いたり、地域で生きた証を残そうという気持ちを確認したり、地域活性化のために自分ができることを考えたりすることは初めての試みでした。地域の活性化と地縁の再構築に確実につながりました。
- ◇「あんずのまち」のPR活動や交流カフェの実施が、「あんずのまち」の住民としての意識づけや誇りの確認につながりました。地域住民から喜ばれています。
- ◇将来的には育った若木を持ち寄って移植し、住民の癒し空間「あんずの庭」（公園）などの造成や、「あんずマップ」の作成などの多彩な構想も出てきました。
- ◇今後も「あんずのまち」構想の研究を継続させ、住民手づくりの「あんずのまちの未来図」を完成させたいという機運が高まっています。